数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度【応用基礎レベル】令和8年度申請用

様式1

大学等名	国際医療福祉大学
プログラム名	国際医療福祉大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム
適用モデルカリキュラム	改訂版モデルカリキュラム(2024年2月22日改訂)

応用基礎レベルのプログラムを構成する授業科目について

① 申請単位：大学等全体のプログラム

② 既認定プログラムとの関係：大学等単位へ拡大

③ 教育プログラムの修了要件：学部・学科によって、修了要件は相違する

④ 対象となる学部・学科名称：保健医療学部、医療福祉学部、薬学部、赤坂心理・医療福祉マネジメント学部、医学部、成田看護学部、成田保健医療学部、成田薬学部、小田原保健医療学部、福岡保健医療学部、福岡薬学部

⑤ プログラム履修必須の有無：令和10年度以降に履修必須とする計画、又は未定

⑥ 修了要件：必須科目2単位を修得すること。

⑦プログラム構成科目

必要最低科目数・単位数：2 科目、2 単位

	授業科目	単位数	モデルカリキュラム対応状況 Ⅰ 1-6	1-7	2-2	2-7	Ⅱ 1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-10	Ⅲ AI・DS実践	1-3	1-4	1-5	2-3	2-4	2-5	2-6	3-6	3-7	3-8	3-9	数学発展	AI応用基礎	データサイエンス応用基礎	データエンジニアリング応用基礎	その他
(1)必須科目(プログラムを修了するために必ず履修しなければならない科目) ※卒業要件上の必修科目とは必ずしもイコールではない	医療データサイエンスⅠ(DS基礎)	1	○	○	○	○	○	○	○							○															
	医療データサイエンスⅡ(AI基礎)	1								○	○	○	○	○	○	○															
(2)選択必須科目(プログラムを修了するために一定の条件のもと履修しなければならない科目)																															
(3)選択科目(プログラムを構成する科目のうち「必須科目」「選択必須科目」のいずれにも該当しない科目)																															

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
（1）データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎（統計数理、線形代数、微分積分）」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	・代表値（平均値、中央値、最頻値）、分散、標準偏差「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」 ・相関係数、相関関係と因果関係「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」
	1-7	・アルゴリズムの表現（フローチャート）「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」
	2-2	・コンピュータで扱うデータ（数値、文章、画像、音声、動画など）「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」
	2-7	・文字型、整数型、浮動小数点型「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」 ・変数、代入、四則演算、論理演算「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」 ・配列、関数、引数、戻り値「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」 ・順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」
（2）AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	・データ駆動型社会、Society5.0「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」 ・データサイエンス活用事例（仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替など）「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」
	1-2	・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」 ・様々なデータ分析手法（回帰、分類、クラスタリングなど）「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」 ・様々なデータ可視化手法（比較、構成、分布、変化など）「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」
	2-1	・ICT（情報通信技術）の進展、ビッグデータ「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」 ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」 ・ビッグデータ活用事例「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」
	3-1	・AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」 ・汎用AI/特化型AI（強いAI/弱いAI）「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」
	3-2	・AI倫理、AIの社会的受容性「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」 ・プライバシー保護、個人情報の取り扱い「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」
	3-3	・実世界で進む機械学習の応用と発展（需要予測、異常検知、商品推薦など）「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」 ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」 ・学習データと検証データ「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」
	3-4	・実世界で進む深層学習の応用と革新（画像認識、自然言語処理、音声生成など）「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」 ・ニューラルネットワークの原理「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」 ・ディープニューラルネットワーク（DNN）「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」
	3-5	・実世界で進む生成AIの応用と革新（対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など）「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」 ・基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」 ・生成AIの留意事項（ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など）「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」
	3-10	・AIの学習と推論、評価、再学習「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」

（3）本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用 企画・実施・評価」から構成される。	Ⅰ	・アルゴリズムの表現（フローチャート）「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」 ・並び替え（ソート）、探索（サーチ）「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」 ・文字型、整数型、浮動小数点型「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」 ・変数、代入、四則演算、論理演算「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」 ・配列、関数、引数、戻り値「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」 ・順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「医療データサイエンスⅠ（DS基礎）」
	Ⅱ	・実世界で進む機械学習の応用と発展（需要予測、異常検知、商品推薦など）「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」 ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」 ・学習データと検証データ「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」 ・実世界で進む深層学習の応用と革新（画像認識、自然言語処理、音声生成など）「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」 ・ニューラルネットワークの原理「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」 ・ディープニューラルネットワーク（DNN）「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」 ・実世界で進む生成AIの応用と革新（対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など）「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」 ・AIの学習と推論、評価、再学習「医療データサイエンスⅡ（AI基礎）」

⑦プログラムの学修成果（学生等が身に付けられる能力等）

1. データ駆動型社会においてデータサイエンスを学ぶことの意義を理解できる
2. 分析目的に応じ、適切なデータ分析手法、データ可視化手法を選択できる
3. データを可視化し、意味合いを導出することができる
4. データを活用した一連のプロセスを体験し、データ利活用の流れ（進め方）を理解できる
5. 仮説や既知の問題が与えられた中で、必要なデータにあたりをつけ、データを分析できる
6. 分析結果を元に事象の背景や意味合いを理解できる
7. データを収集・処理・蓄積するための技術の概要を理解できる
8. コンピュータでデータを扱うためのデータ表現の基礎を理解できる
9. AIのこれまでの変遷、各段階における代表的な成果物や技術背景を理解できる
10. 今後、AIが社会に受け入れられるために考慮すべき論点を理解できる
11. 自らの専門分野にAIを応用する際に求められるモラルや倫理について理解できる
12. 機械学習、深層学習、強化学習の基本的な概念を理解できる
13. AI技術を活用し、課題解決につなげることができる

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度【応用基礎レベル】令和8年度申請用

様式1

大学等名	国際医療福祉大学
プログラム名	国際医療福祉大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム
適用モデルカリキュラム	改訂版モデルカリキュラム(2024年2月22日改訂)

応用基礎レベルのプログラムを構成する授業科目について

① 申請単位：大学等全体のプログラム

② 既認定プログラムとの関係：大学等単位へ拡大

③ 教育プログラムの修了要件：学部・学科によって、修了要件は相違する

④ 対象となる学部・学科名称：福岡保健医療学部看護学科

⑤ プログラム履修必須の有無：令和10年度以降に履修必須とする計画、又は未定

⑥ 修了要件：必須科目3単位を修得すること。

⑦プログラム構成科目

必要最低科目数・単位数：2科目 / 3単位

	授業科目	単位数	モデルカリキュラム対応状況																												
			Ⅰ				Ⅱ										Ⅲ															
			1-6	1-7	2-2	2-7	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-10	AI・DS実践	1-3	1-4	1-5	2-3	2-4	2-5	2-6	3-6	3-7	3-8	3-9	数学発展	AI応用基礎	データサイエンス応用基礎	データエンジニアリング応用基礎	その他
(1)必須科目(プログラムを修了するために必ず履修しなければならない科目) ※卒業要件上の必修科目とは必ずしもイコールではない	情報処理Ⅱ(応用)	1	○	○	○	○	○	○	○							○															
	医療情報学概論	2								○	○	○	○	○	○	○															
(2)選択必須科目(プログラムを修了するために一定の条件のもと履修しなければならない科目)																															
(3)選択科目(プログラムを構成する科目のうち「必須科目」「選択必須科目」のいずれにも該当しない科目)																															

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
（1）データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎（統計数理、線形代数、微分積分）」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	・代表値（平均値、中央値、最頻値）、分散、標準偏差「情報処理Ⅱ（応用）」 ・相関係数、相関関係と因果関係「情報処理Ⅱ（応用）」
	1-7	・アルゴリズムの表現（フローチャート）「情報処理Ⅱ（応用）」
	2-2	・コンピュータで扱うデータ（数値、文章、画像、音声、動画など）「情報処理Ⅱ（応用）」
	2-7	・文字型、整数型、浮動小数点型「情報処理Ⅱ（応用）」 ・変数、代入、四則演算、論理演算「情報処理Ⅱ（応用）」 ・配列、関数、引数、戻り値「情報処理Ⅱ（応用）」 ・順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「情報処理Ⅱ（応用）」
（2）AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	・データ駆動型社会、Society5.0「情報処理Ⅱ（応用）」 ・データサイエンス活用事例（仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替など）「情報処理Ⅱ（応用）」
	1-2	・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「情報処理Ⅱ（応用）」 ・様々なデータ分析手法（回帰、分類、クラスタリングなど）「情報処理Ⅱ（応用）」 ・様々なデータ可視化手法（比較、構成、分布、変化など）「情報処理Ⅱ（応用）」
	2-1	・ICT（情報通信技術）の進展、ビッグデータ「情報処理Ⅱ（応用）」 ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス「情報処理Ⅱ（応用）」 ・ビッグデータ活用事例「情報処理Ⅱ（応用）」
	3-1	・AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム「医療情報学概論」 ・汎用AI/特化型AI（強いAI/弱いAI）「医療情報学概論」
	3-2	・AI倫理、AIの社会的受容性「医療情報学概論」 ・プライバシー保護、個人情報の取り扱い「医療情報学概論」
	3-3	・実世界で進む機械学習の応用と発展（需要予測、異常検知、商品推薦など）「医療情報学概論」 ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「医療情報学概論」 ・学習データと検証データ「医療情報学概論」
	3-4	・実世界で進む深層学習の応用と革新（画像認識、自然言語処理、音声生成など）「医療情報学概論」 ・ニューラルネットワークの原理「医療情報学概論」 ・ディープニューラルネットワーク（DNN）「医療情報学概論」
	3-5	・実世界で進む生成AIの応用と革新（対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など）「医療情報学概論」 ・基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル「医療情報学概論」 ・生成AIの留意事項（ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など）「医療情報学概論」
	3-10	・AIの学習と推論、評価、再学習「医療情報学概論」

（3）本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用 企画・実施・評価」から構成される。	Ⅰ	・アルゴリズムの表現（フローチャート）「情報処理Ⅱ（応用）」 ・並び替え（ソート）、探索（サーチ）「情報処理Ⅱ（応用）」 ・文字型、整数型、浮動小数点型「情報処理Ⅱ（応用）」 ・変数、代入、四則演算、論理演算「情報処理Ⅱ（応用）」 ・配列、関数、引数、戻り値「情報処理Ⅱ（応用）」 ・順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「情報処理Ⅱ（応用）」
	Ⅱ	・実世界で進む機械学習の応用と発展（需要予測、異常検知、商品推薦など）「医療情報学概論」 ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「医療情報学概論」 ・学習データと検証データ「医療情報学概論」 ・実世界で進む深層学習の応用と革新（画像認識、自然言語処理、音声生成など）「医療情報学概論」 ・ニューラルネットワークの原理「医療情報学概論」 ・ディープニューラルネットワーク（DNN）「医療情報学概論」 ・実世界で進む生成AIの応用と革新（対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など）「医療情報学概論」 ・AIの学習と推論、評価、再学習「医療情報学概論」

⑦プログラムの学修成果（学生等が身に付けられる能力等）

1. データ駆動型社会においてデータサイエンスを学ぶことの意義を理解できる
2. 分析目的に応じ、適切なデータ分析手法、データ可視化手法を選択できる
3. データを可視化し、意味合いを導出することができる
4. データを活用した一連のプロセスを体験し、データ利活用の流れ（進め方）を理解できる
5. 仮説や既知の問題が与えられた中で、必要なデータにあたりをつけ、データを分析できる
6. 分析結果を元に事象の背景や意味合いを理解できる
7. データを収集・処理・蓄積するための技術の概要を理解できる
8. コンピュータでデータを扱うためのデータ表現の基礎を理解できる
9. AIのこれまでの変遷、各段階における代表的な成果物や技術背景を理解できる
10. 今後、AIが社会に受け入れられるために考慮すべき論点を理解できる
11. 自らの専門分野にAIを応用する際に求められるモラルや倫理について理解できる
12. 機械学習、深層学習、強化学習の基本的な概念を理解できる
13. AI技術を活用し、課題解決につなげることができる

様式2

応用基礎レベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度　令和6　年度（和暦）

②履修者・修了者の実績（「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載）

学部名称	学生数	うち女性	入学定員	収容定員	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		履修者数合計	履修率
					履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
保健医療学部	2,267	1,480	615	2,220	0	0	0	0									0	0%
医療福祉学部	502	312	140	570	1	1	0	0									1	0%
薬学部	1,057	680	180	1,080	3	3	0	0									3	0%
赤坂心理・医療福祉マネジメント学部	473	345	120	480	12	4	12	5									24	5%
医学部	847	361	140	840	8	4											8	1%
成田看護学部	423	381	100	400	0	0	1	0									1	0%
成田保健医療学部	1,226	786	290	1,160	0	0	3	0									3	0%
成田薬学部	258	181	120	240	0	0											0	0%
小田原保健医療学部	848	585	200	800	0	0	0	0									0	0%
福岡保健医療学部	857	605	220	880	23	0	9	0									32	4%
福岡薬学部	719	506	120	720	0	0	0	0									0	0%
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
合　計	9,477	6,222	2,245	9,390	47	12	25	5	0	0	0	0	0	0	0	0	72	1%

様式3

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

（常勤）	1134	人
（非常勤）	203	人

② プログラムの授業を教えている教員数（令和7年度）

5	人

③ プログラムの運営責任者

（責任者名）	西田　裕介
（役職名）	総合教育センター長

④ プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）

（名称）	国際医療福祉大学教務統括委員会

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

（名称）	国際医療福祉大学教務委員会規程

⑥ 体制の目的

本プログラムを改善・進化させるため、教務統括委員会に下部組織として「数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討WG」（以下「検討WG」とする。）を設置している。検討WGでは、数理・データサイエンス・AI教育の充実を目的に、本プログラムにおける教育内容の点検および改善を行っている。

⑦ 具体的な構成員

数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討WG構成員
総合教育センター長　西田裕介
総合教育センター　教授　宮嶋宏行
学校法人国際医療福祉大学　専務理事　三浦総一郎
事務局企画部　秋田裕貴

（大田原キャンパス）
情報教育センター　准教授　石川　徹

（成田キャンパス）
医学研究科　教授　稲垣誠一
成田薬学部　助教　柴田侑裕
総合教育センター　助教　騎西健太

（東京赤坂キャンパス）
赤坂心理・医療福祉マネジメント学部　教授　石川ベンジャミン光一

（小田原キャンパス）
小田原保健医療学部　講師　上杉　睦

（大川キャンパス）
福岡保健医療学部　准教授　安本誠一
福岡保健医療学部　講師　上野民生

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	1%
令和8年度予定	2%
令和9年度予定	3%
令和10年度予定	4%
令和11年度予定	5%

具体的な計画

令和5年度以降の入学生に適用されるカリキュラムにおいて、数理・データサイエンス・AI教育に関する授業科目を導入している。このうち、リテラシーレベルの構成科目を全学的に必修化し、すべての学生が本プログラム（応用基礎レベル）の学修へ円滑に移行できるよう基礎力を養成している。

このうえで、履修者数・履修率に係る数値目標の達成に向けて、履修ガイダンスや大学ホームページを通じて、学修意義や到達目標等の各種情報を積極的に発信する。併せて、教育ワークショップを開催し、教育・臨床・研究等の各場面における活用事例を紹介する。これらの取組を通じて、学生の興味・関心をさらに喚起し、プログラム履修を促進する。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

全学部のカリキュラムにおいて、リテラシーレベルの構成科目を必修化することで、すべての学生が本プログラム（応用基礎レベル）の学修へ円滑に移行できる体制を構築している。また、応用基礎レベルの構成科目は、全学部において2年次以降に履修可能な選択科目として配当し、段階的に学修できるプログラム構成としている。

さらに、検討WGにおいて、各キャンパスにおける運営上の課題を集約し、これを基礎資料としてプログラム内容の点検を行うことで、学生の学修内容に差異が生じないよう取り組んでいる。これらの取組により、学部・学科に関係なく、希望するすべての学生が受講可能な体制を整備している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

履修ガイダンスや大学ホームページ等の各種媒体を通じて、本プログラムの学修意義や到達目標について周知を行っている。併せて、教育ワークショップを開催し、臨床・教育・研究の各場面における活用事例を紹介することで、学生の興味・関心の向上につなげる。また、本プログラムの修了者には修了証を交付し、学修成果の対外的な証明を可能とすることにより、履修意欲の喚起につなげている。これらの取組を通じて、多くの学生が本プログラムを履修できるよう周知を行っている。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本プログラムの授業科目については、学習管理システムにアーカイブを蓄積し、いつでも授業映像の閲覧が可能な環境を構築している。また、受講後には確認テストの受験も義務付けている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本プログラムの授業科目を担当する教員は、すべて専任教員である。このため、オフィスアワー等を活用することにより、学生は授業時間外においても学習指導を受けたり、質問したりすることができる。さらに、令和2年度から全学で学習管理システム「Google Workspace for Education」を導入しており、オンライン上でも学習指導や質疑応答が可能な体制を整備している。

様式4

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 | 国際医療福祉大学自己点検・評価委員会

（責任者名）鈴木　康裕
（役職名）学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
	プログラムの履修・修得状況	本プログラムを構成する授業科目の履修状況および単位修得状況は、学籍管理システム上で一元的に管理しており、学生の履修・修得状況を適切に把握できる体制を整えている。 なお、本学が設置する学部の多くは医療福祉系学部であり、指定規則に準じてカリキュラムを編成していることから、必修科目と選択科目との履修バランスを考慮する必要がある。こうした学部の事情を踏まえ、履修者数および履修率を向上させるための検討を重ねている。
	学修成果	本プログラムでは、授業科目ごとの成績分布の分析を通じて、学生の授業内容に対する理解度を把握している。また、各授業科目で実施している授業アンケートをもとに、シラバスと授業内容との整合性を検証している。これらの結果を踏まえ、本項目の自己点検・評価を行っている。
	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	年度の始めに、すべての学生を対象として学修行動調査（アンケート）を実施している。本調査の項目「数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能が身に付いたと思うか」における回答結果を指標の一つとして分析し、本項目の自己点検・評価を行っている。
	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	学年末に、すべてのプログラム履修者を対象として数理・データサイエンス・AI教育に関するアンケートを実施している。本アンケートの項目「プログラムの履修を後輩等、他の学生に推奨したいと思いますか」における回答結果を指標の一つとして分析し、本項目の自己点検・評価を行っている。
	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムの学修意義および到達目標について、履修ガイダンスや大学ホームページ等の媒体を通じて継続的に発信している。併せて、教育ワークショップを定期的に開催し、臨床・教育・研究の各場面における具体的な活用方法を紹介している。また、応用基礎レベルの修了者には修了証を交付し、学修成果を対外的に証明できる体制を整備している。これらの取組を通じて、学生の興味・関心を喚起し、履修者数および履修率の向上を図っている。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは、令和5年度に開始したものであるため、現時点では、すべての履修者は在学中の学生である。 2027年度に本プログラムを学修した第1期の学生が卒業することから、2028年度以降に卒業生の就職先を対象としたアンケート調査の実施を予定している。本アンケートを通じて、修了生の就職後の活躍状況や企業等の評価を収集し、これらの結果をもとに本項目の自己点検・評価を行う予定である。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本プログラムについては、数理・データサイエンス・AI教育プログラム検討WG（以下「検討WG」という。）において、年度ごとに教育内容等の点検・評価を行い、報告書を作成している。当該報告書に基づき、自己点検・評価委員会において報告を行うとともに、学外委員（産業界および学術分野の有識者）から、プログラム内容等に関する意見を収集している。これらの意見については、検討WGにおいて精査し、本プログラムに反映している。 これに加え、毎年、教育ワークショップを開催し、本学の数理・データサイエンス・AI教育に関する取組を紹介している。本プログラムの見直しにあたっては、本ワークショップ参加者から寄せられた意見についても活用している。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		授業科目ごとに実施している授業アンケートでは、「総合的に判断してこの講義は満足でしたか」という項目を設定している。本項目をもとに学生の満足度を把握し、検討WGにおいて授業内容が数理・データサイエンス・AIを学ぶ楽しさや意義の理解につながっているかを評価している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		学期ごとに検討WGのミーティングを実施し、授業担当教員の意見や授業アンケートの結果を踏まえて、教育内容や授業方法等について継続的な見直しを行っている。 また、学生にとってより分かりやすい授業とするために、オンラインツール（Microsoft Teams）を活用し、担当教職員間で教材や外部セミナー等に関する情報共有を行い、教育の内容や水準の維持向上を図っている。

大学等名	**国際医療福祉大学**	申請レベル	応用基礎レベル（大学等単位）
教育プログラム名	国際医療福祉大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和８年度

取組概要

プログラムの目的

統計学と情報工学を融合した実践的な教育を実施し、医療福祉分野を始めとした多様な分野において、数理・データサイエンス・AIの知識と技術を活用できる人材の養成を目的とする。

身に付けられる能力

回帰、分類、クラスタリング、次元削減、深層学習、時系列予測の基本的な方法を身に付けることができる。医療データを分析する際に、目的に応じて適切な方法を選択ができる。

修了要件

以下2科目、計2単位を取得すること。

・医療データサイエンスⅠ（DS基礎）（1単位）

・医療データサイエンスⅡ（AI基礎）（1単位）

※福岡保健医療学部看護学科では、科目を読替えて実施します。

実施体制

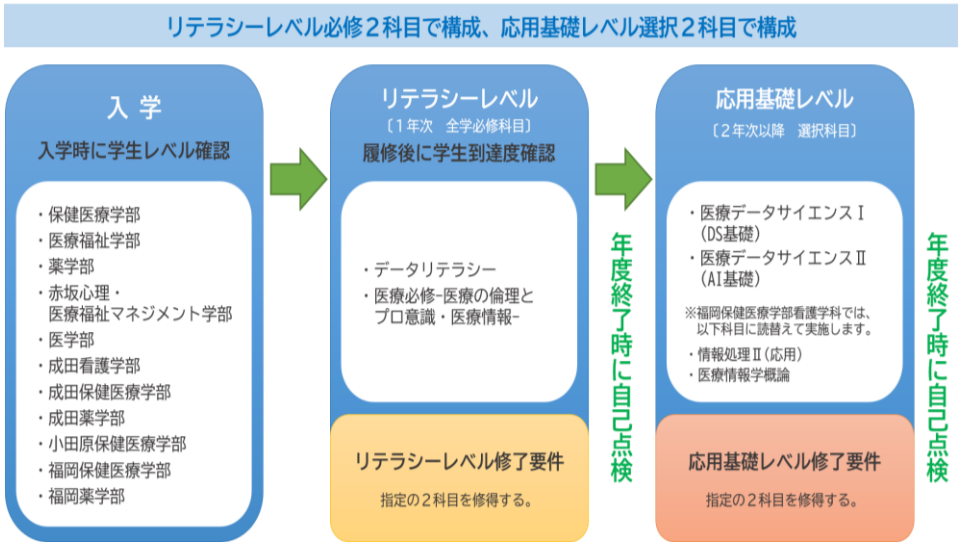
プログラムの運営は、総合教育センターおよび科目担当教員が行う。プログラムの検討・改善は、教務統括委員会およびWG、自己点検評価は、自己点検・評価委員会で行う。

委員会等	役割
総合教育センター長	運営責任者
教務統括委員会、数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラムWG	プログラムの検討・改善
自己点検・評価委員会	プログラムの自己点検・評価
科目担当教員5名（令和7年度）	２科目の授業運営

令和7年度結果

学生数　9,477名、履修者数　47名

開講されている科目の構成



授業の概要

科目名	医療データサイエンスI（DS基礎）／ 情報処理II（応用）
概　要	「データリテラシー」で学習した内容を深化させることを目的とし、「データ駆動型社会とSociety5.0」「データ分析の進め方」「データの記述・可視化・分析」「ビックデータとデータエンジニアリング」および「データ表現・収集・加工」について、グループワークや演習を通じて実践的に学習する。あわせて、これらの学習内容の基盤である「数学基礎」「アルゴリズム」および「プログラミング基礎」についても、医療データを用いたグループワークや演習を通じて実践的に学習する。

科目名	医療データサイエンスII（AI基礎）／ 医療情報学概論
概　要	「データリテラシー」や「医療データサイエンスI」の学習内容を踏まえて、AI（人工知能）の基礎について、「AIと社会」「機械学習」「深層学習」の基礎について学んだあと、Python等を用いた「AIの構築と運用」について、医療データを用いたグループワークや演習を通じて実践的に学習する。